

俗神

土田ヒロミ
写真展

ZOKUSHIN

HIROMI TSUCHIDA
PHOTO EXHIBITION

フジフィルムスクエア写真歴史博物館企画写真展



2025年3月27日(木)－6月30日(月)

10:00—19:00 (最終日は16:00まで、入館は終了10分前まで) 会期中無休・入館無料

主催：富士フイルム株式会社 協力：Office Nirvana 土田ヒロミ

企画：コンタクト 後援：港区教育委員会

ZOKUSHIN
HIROMI TSUCHIDA
PHOTO EXHIBITION

土田ヒロミ
写真展

俗神

フジフィルム スクエア 写真歴史博物館 企画写真展

2025年3月27日(木)ー6月30日(月)

10:00ー19:00 (最終日は16:00まで、入館は終了10分前まで) 会期中無休・入館無料

主催：富士フィルム株式会社 協力：Office Nirvana 土田ヒロミ

企画：コンタクト 後援：港区教育委員会

1971年、第8回太陽賞を受賞した「自閉空間」で写真家として本格的にデビューして以来、多岐にわたるテーマで意欲的な作品を発表し続けている土田ヒロミは、戦後日本を代表する写真家の一人として、国内外で高い評価を得ています。

土田ヒロミの名を一躍世に知らしめる一作となったのが、1968年から1975年にかけて日本各地の土俗文化を取材したシリーズ「俗^{ぞくしん}神」です。このシリーズは、「フリーの写真家になることを決めた際、農家を出自とする自分自身を検証するためにまず土俗文化に対峙する必要性を感じた」という土田の想いが原点となっています。青森から沖縄まで全国津々浦々を巡り、時代を超えて継承される土俗的なハレの場、なかでも大衆や風物の中にある日本人の土俗的感性を赤裸々にとらえ提示しました。急速な経済成長が土着的なものを容赦なく侵食していく中、土田の視点でとらえられた土地と人々が紡ぎあげてきたさまざまなハレの場の記録は、1972年から隔月で『カメラ毎日』に「絆」として連載され、1974年には、海外で初めて日本の写真家を紹介する大規模な展覧会となったニューヨーク近代美術館での「New Japanese Photography」展にも同シリーズの作品が出品されます。1976年、デビュー作である「自閉空間」からの作品も加え、写真集『俗神』（オットーズ・ブックス社）として刊行され大きな反響を呼びました。

本展では、シリーズ「俗神」から精選したゼラチンシルバープリントによる約30点を展示します。大きな転換点の中にいる今という時代だからこそ、「俗神」の世界は、より新鮮に深く見るものに多くを問いかけてくれます。

「写真がはじめてこの世に登場したとき、写すという行為は、非日常的なハレの儀式的執行であり、写される人びとも、無機的な(被写体)ではなく、晴れがましい緊張の一瞬に耐えながら、儀式に参加し、積極的に儀式を支えた。土田ヒロミは、人びとがすっかり忘れてしまった、写真の、この原体験に、今一度復帰しようとする。」 ————— 安永寿延「〈俗神〉によせて」(『俗神』オットーズ・ブックス社、1976年)



青森・弘前 1972年



山梨・富士山 1973年



奈良・大峰山 1972年



東京・浅草 1970年

写真4点共 ©土田ヒロミ

土田ヒロミ(つちだ・ひろみ)

1939年福井県南条郡堺村(現・南越前町)生まれ。1963年、福井大学工学部卒業後、ポーラ化粧品本舗に入社。1964年、東京勤務を機に東京総合写真専門学校研究科で学ぶ。1966年、同校卒業。1971年、独立し写真家の道を選ぶ。同年、「自閉空間」で第8回太陽賞受賞。1976年頃から開始した「ヒロシマ三部作」は『ヒロシマ1945-1979』(朝日ソノラマ、1979年)、『ヒロシマ・モニュメント』(冬青社、1995年)、『ヒロシマ・コレクション』(NHK出版、1995年)として刊行され、現在に至るまで広島撮影を続けている。1984年、第40回日本写真協会年次賞、1987年、第3回伊奈信男賞を受賞。2008年、「土田ヒロミのニッポン」(東京都写真美術館)により第27回土門拳賞受賞。1992年から96年まで東京総合写真専門学校校長を務める。2000年から13年まで大阪芸術大学写真学科教授。上記の他、主な写真集に『俗神』(オットーズ・ブックス、1976年)、『砂を数える』(冬青社、1990年)、『新・砂を数える』(冬青社、2005年)、『BERLIN』(平凡社、2011年)、『フクシマ』(みすず書房、2018年)、『Aging』(ふげん社、2022年)など。東京都写真美術館、東京国立近代美術館、ボストン美術館、テート・モダン、カナダ国立美術館、ニューヨーク近代美術館、サンフランシスコ近代美術館、ボンビドー・センターなどに作品が収蔵されている。



◎土田ヒロミ氏によるギャラリートーク

4月5日(土)・5月24日(土) 各日14:00から30~40分間 参加無料・予約不要

※写真展会場内で実施、座席はございません。予めご了承ください。

FUJIFILM

Value from Innovation フジフィルム スクエア 写真歴史博物館

〒107-0052 東京都港区赤坂9丁目7番3号

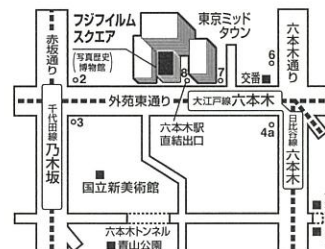
TEL 03-6271-3350 電話受付時間[10:00~18:00] URL <https://fujifilmsquare.jp/>



※写真展・イベントはやむを得ず、中止・変更させていただく場合がございます。予めご了承ください。※祝花は固くお断り申し上げます。



写真歴史博物館は、2024年、公益社団法人企業メセナ協議会より、「芸術・文化振興による社会創造活動」として「THIS IS MECENAT 2024」の認定を受けております。



都営大江戸線「六本木駅」8番出口と直結
東京メトロ日比谷線「六本木駅」地下通路より徒歩約4分
東京メトロ千代田線「乃木坂駅」3番出口より徒歩約5分